NAGASAKI IKI

もうひとつの「ただいま」を壱岐に

「移住」でも「観光」でもない過ごし方

暮らし方はひとつに決めなくていい。

二地域居住という考え方

暮らす場所は「選ぶ」から「組み合わせる」ものへ。

働く場所は固定されなくなった。オンラインで仕事ができる。
都市は便利だけれど、余白は少しずつ減っている。
家と職場を往復する毎日。同じ景色の繰り返し。
ひとつの場所に、すべてを預けなくてもいいのかもしれない。
生活拠点をひとつに限定せず、複数の場所を行き来しながら暮らすスタイル。
移住でも旅行でもない、生活を分けるという選択へ。

壱岐との関わり方を、考える。

二地域居住のご相談窓口

新しい拠点での暮らしを思い描くとき、
期待と同時にさまざまな疑問も浮かびます。
壱岐市では、二地域居住についてのご相談をお受けしています。
住まいや仕事、子育て、利用できる制度など、一人ひとりの状況に合わせて情報をご案内します。まずは、壱岐での暮らしを知ることから。
ぜひ、壱岐市公式ホームページや公式LINEも、あわせてご覧ください。

壱岐市
LINE公式アカウント

壱岐市
公式ホームページ

壱岐市役所 地域振興部 地域共創課
電話番号：0920-48-1134（直通）

壱岐という島。 4つの町と、暮らしの風景

「もうすぐ壱岐だ！」そう思うだけで、心に余白が生まれていく。
壱岐島は、自然と暮らしが無理なく隣り合う、安心できる場所です。

壱岐島は、郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の4つの町からなる、約23,000人（R8.2月末現在）が暮らしている島です。
潮風かおる港町、歴史が息づくエリア、商店や病院が集まる中心部、季節ごとに変化する田園風景。
それぞれの町が異なる表情を持ちながら、1つの島の日常を形づくっています。

「利便性と自然が身近にあること」それが、壱岐の暮らしの大きな特徴です。
島内には病院やクリニック、小中学校に加えて高校もあり、スーパーやコンビニ、ドラッグストアなど、日々の買い物を支える環境も整っています。光回線の整備も進み、リモートワークを選ぶ人にとっても快適な環境です。
買い物に出かける道のすぐ先に、海がある。仕事や学校の帰り道に、鳥の声に耳を澄ませ草花の彩りを感じる。
車の窓を開ければ、心地よい風が吹き抜けていく。
壱岐島は、「住む」と「旅」のあいだにある選択肢を、そっと広げてくれる島です。

博多から高速船で約65分。
ほどよく近い距離にあることも、壱岐島がもうひとつの拠点として選ばれる理由になっています。

壱岐の日常を彩るもの

壱岐は、魚介や壱岐牛、壱岐焼酎など、土地に根ざした食文化が息づく島です。
海水浴やサーフィン、釣りといった海のアクティビティに加え、地域のスポーツや行事も身近にあり、日常の中で楽しみが広がっています。観光地として訪れるだけでなく、暮らしの中で味わう豊かさがある。それが壱岐島の魅力です。

食文化

玄界灘の海の幸や壱岐牛、壱岐焼酎、島に残る郷土料理など、豊かな食文化があります。

海とスポーツ

海水浴や釣り、サーフィンに加え、芝生のグラウンドやスポーツ施設も整備されています。
自然のそばで、さまざまな環境で体を動かせる環境があります。

文化と歴史

神社や遺跡、地域の祭りが今も息づく島。
暮らしのすぐそばに、積み重ねられてきた時間があります。

Access

- 福岡空港 —（地下鉄で約5分）→ 博多駅 —（バスで約20分）→ 博多港 —（高速船で約65分）→ 芦辺港 または 郷ノ浦港
- 博多港 —（フェリーで約130分）→ 芦辺港 または 郷ノ浦港
- 長崎空港 —（飛行機で約30分）→ 壱岐空港
- 唐津東港 —（フェリーで約110分）→ 印通寺港

Iki Island Nagasaki

壱岐島 MAP

辰ノ島

壱岐テレワークセンター

湯本温泉

原の辻遺跡

猿岩

石田スポーツセンター

筒城浜海水浴場

その他の観光情報は、
下記インスタグラムからもご覧いただけます！

観光地や体験などの
お役立ち情報を紹介中！

壱岐市観光連盟
公式インスタグラム

壱岐のお店情報などを
紹介中！

壱岐市商工会
公式インスタグラム

壱岐島内の交通手段について

島内の移動は車が便利です。
他にも、レンタサイクルやバスなどの移動手段もあります。
詳しくはQRコードから、ご覧ください。

レンタカー

壱岐ちゃり

その他交通手段

壱岐はスポーツが盛んで、老若男女が日常的に楽しんでいます。
卓球やテニス、トレーニングなどに利用できる体育館やコート、スポーツジムなどの施設があり、申請をして利用することができます。
屋内外の施設がそろっているため、天候や季節に左右されにくく、継続してスポーツを楽しむことができる環境が整っています。

くわしくはこちら

壱岐市
公式ホームページ

観光で終わるなんて、もったいない。

少しずつ深まる、あなたと壱岐のつながり

「どこから来たか」より、どんなことをして過ごすか。
この島での居心地を決めるのは、あなたが過ごした時間の積み重ねです。
壱岐島内には、祭りやスポーツイベント、学びの場やボランティア活動など、住んでいなくても関われる”つながり方”があります。

観光として訪れる。イベントに参加してみる。少しだけ手伝ってみる。
そんな時間や過ごしたことの積み重ねが、顔見知りをつくり、いつしか壱岐を「日常」に変えていく。

そして聞こえてくる言葉は、「ようこそ」から「おかえり」へ。
壱岐とのつながり方は、ひとつではありません。
誰かとともに過ごす日もあれば、一人の時間を満喫する日があってもいい。
この島に、あなたなりの居場所を見つけるための はじめの一歩をご紹介します。

interview

壱岐市役所 地域振興部 地域共創課　篠崎道裕 課長

壱岐市は「二地域居住」をどのように考えていますか?

壱岐市は、これからのまちづくりの指針となる第4次総合計画（2025～2029）において、「2050年人口2万人」を維持するという目標を掲げています。国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2050年の壱岐市の人口は約1万3千人で、第4次総合計画の目標はかなり野心的です。

すでに日本全体が人口減少の大きな流れにあり、人口の奪い合いで地方が生き残るのは難しいのではないでしょうか。二地域居住は、“人口のシェア”という発想に近しいと考えており、都市と地方が“共生”できる施策になり得ると思います。市としても二地域居住の促進に積極的に取り組んでいきたいと思います。

壱岐市の魅力は何だと思いますか?

私にとって壱岐市の魅力は、“自然”です。特に海の美しさは、海外を含めた色々な観光スポットにも負けないと思っています。また、食べ物も壱岐の魅力の一つです。海の幸は、出張などで色々なところに行きますが、壱岐で食べた方が圧倒的においしいと感じます。

都市部と壱岐市では、時間の流れにどのような違いがあると感じますか?

仕事で福岡や東京に行くと、東京での時間は早く感じる気がします。また、仕事で都市圏から壱岐市に来られた方からは、のんびりと釣りを楽しんでいるときが最高という話を聞きます。

実際は、私が壱岐市にいるときも仕事に追われていれば時間の流れは早いし、休みにのんびりと散歩をしていると時間の流れもゆるやかなので、シチュエーションが時間の感じ方に影響するのだと思います。

ただ、壱岐市の自然豊かなロケーションが“のんびり”といった感覚を強烈に助長させるのではないでしょうか。

二地域居住という選択肢を検討している方へメッセージをお願いします。

きっかけは何でも良いので、一度、壱岐市に足を運んでみていただきたいです。壱岐市は離島なので海を渡らないといけません。気軽にというよりも、ちょっとした覚悟が必要になりますが、覚悟と冒険心で、今までの日常と違った世界を味わうことができると思います。普段と違う場所で“非日常”の連続を楽しめる、そんな暮らし方のお手伝いをしていきます。

体を動かす

壱岐ウルトラマラソンや壱岐の島新春マラソン、ツール・ド・壱岐島など、地域と一緒につくるスポーツの場があります。
参加者としても、運営の手伝いとしても関わることができます。

神々の島壱岐ウルトラマラソン

島を一周するウルトラマラソン大会。100kmと50kmのコースがあり、島の温かさを感じる沿道の応援や充実したエイド(給水・給食)が人気でリピーター参加者も多いです。

壱岐ウルトラマラソン実行委員会
Instagram:@iki_ultra

壱岐の島新春マラソン大会

歴史あるマラソン大会。バリエーション豊かなコースがあり島内外から参加者が集まります。清石浜海水浴場、左京鼻の景色を見て、新春の潮風を感じながら走ることができます。

新春マラソン大会実行委員会
Instagram:@iki_shinsyunmarathon

ツール・ド・壱岐島

九州最大級のサイクルロードレース。海岸線を含めた島内一周の一般公道が舞台となります。
適度なアップダウンと風光明媚な壱岐の景色を楽しむことができます。

壱岐サイクルフェスティバル実行委員会
Instagram:@tour_de_ikinoshima

神々の島壱岐ウルトラマラソン

たんがるディックウォーキング

壱岐の自然を歩き、仲間と笑う。2本のポールを使う健康と交流を育むノルディックウォーキング教室です。

JNWA日本ノルディックウォーキング協会
上級インストラクター 鬼塚 裕司
Mail:iseethereforeiam2019@gmail.com

たんがるディックウォーキング

文化に混ざる

お田植祭や地域の行事、ZINEフェスなど、壱岐の文化は“見る”だけでなく“参加できる”もの。
顔を合わせる機会が、自然と増えていきます。

お田植祭

弥生時代の衣装を身にまとい、手作業で古代米を植える体験イベントです。例年5月ごろに行われています。

刈り入れ祭

例年10月中旬から下旬に開催。弥生時代の石器である石包丁を使って、王都米を収穫します。

特定非営利活動法人 一支國研究会
公式サイト:https://ikikoku.jp

IKI ZINE FES

個人やグループが自由なテーマで作った小冊子、「ZINE(ジン)」の展示・販売イベント。島内外から出展可能で、2025年開催時には約150人の方が来場しました。

壱岐ZINE倶楽部
Instagram:@ikizineclub0928

お田植祭（田植体験）

学ぶ

中国の歴史書『魏志倭人伝』にも登場する「一支国(いきこく)」の歴史を学ぶ場があります。
壱岐島について深く知ることが、関わるきっかけになります。

壱岐学講座

壱岐の歴史・文化・自然・偉人などをテーマにした「壱岐学」に関する講座や料理教室、芸術作品制作などの体験学習を通じて、古代のロマンを体感できます。

壱岐市立一支国博物館
Facebook:https://fb.com/100057546695002

一支國研究会

壱岐の歴史、民俗、伝統芸能などを調査研究し、壱岐島の環境保全や地域振興などに取り組む団体。壱岐の歴史を深く学べる講座なども実施。

特定非営利活動法人 一支國研究会
公式サイト:https://ikikoku.jp

一支國研究会

自然に関わる

半城湾クリーンアップ大作戦やボランツーリズムなど、自然を守り、活かす活動に参加できます。
小さな行動1つ1つが、島との距離を縮めていきます。

半城湾クリーンアップ大作戦

2011年より半城湾会を中心に、半城湾の自然・環境・桜や水際の景観を守るため、漂着ゴミを海から回収するボランティア活動を実施。

壱岐市保健環境部 環境衛生課
電話:0920-45-1112

ボランツーリズムin壱岐

海岸漂着ゴミの清掃活動と観光を組み合わせた活動。毎年開催されており、島内外からの参加があります。

壱岐島おこし応援隊「チーム防人」
Mail:takenotuji@coda.ocn.ne.jp

壱岐自然塾

壱岐島内の生物やその環境を調査研究することで島の重要な遺産を守り後世に残していくことを目的として活動しています。

壱岐自然塾
Instagram:@ikisizen.juku

半城湾クリーンアップ大作戦

リフレッシュする

釣りやキャンプ、マリンスポーツ、湯治。楽しむこともまた、島との関わり方のひとつです。
海を眺める時間や、潮の音に耳を澄ますひととき。
特別な予定がなくても、ただこの場所に身を置くことで、心の速度がゆっくりと整っていきます。関わり方は、参加や手伝いだけではありません。
島で過ごす時間そのものが、壱岐との距離を少しずつ縮めていきます。

壱岐をお得に楽しむなら

新・一支國国民証

「新・一支國国民証」は、乗船券が1割引になるほか、島内の宿やお土産店などで割引やプレゼント進呈などの特典があります。

イベントを探すなら

壱岐カレンダー

壱岐のイベント情報、見逃していませんか?
壱岐カレンダーでは、島内の催しを見やすくまとめて掲載中です。
気になる予定を見つけて、島の毎日をもっと楽しく。

「もうすぐ壱岐に帰れる」って思うと頑張れます

初めて来島したときに宿泊した『りとまる』のオーナーさんも釣り好きで、親身に島での暮らしや釣りの話をしてくれて、壱岐にひかれました。道で会うお母さん達も気さくに話しかけてくれるなど、圧倒的な人の温かさを感じ、「この島なら暮らしていけそう」と思いました。

壱岐に定期的に来るようになって、寝泊まりできるところを探し始めた頃、空き家バンクで現在の家を内覧しました。その時に対応してくれた所有者さんの飾らないほのぼのとしたお人柄に触れたことが、購入の決め手となりました。現在は東京から年に9回ほど来島し、改修した家で島の日常を満喫しています。東京では集中して働き、壱岐では釣りや温泉を楽しみながら、のんびりと自然体で過ごしています。

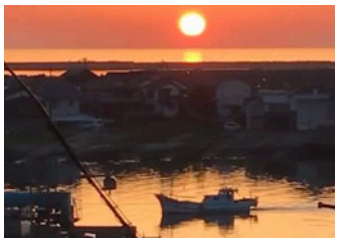
私たちの場合、購入した家の所有者さんがとにかく親切にしてくれたのが、本当にありがたかったです。壱岐に通うようになって2～3ヵ月は車がなくて困っていたのですが、「車がないと不便でしょ」と、所有者さんが宿や港まで送ってくれたりしました。今もご近所に住んでいらっしゃるので、壱岐に帰ってくる時はご挨拶をし、手作りのお料理をお裾分けしてもらったり、釣りが趣味のご主人に釣りを教えてもらったりしています。

私たちは完全に移住をするわけではなかったので、地域の行事やゴミ出しなど、なかなか難しいこともあるかなと思っていましたが、所有者さんが「無理しないで、できる範囲でいいよ」と優しく言ってくださいました。道やルールを教えてくれて、色々なことを導いてもらったって感じです。そうやって皆さんが優しくしてくれるから、私たちも何かお役に立つことができればって思うんです。

「移住してきました！」っていう感じもちょっと違う。けれど、壱岐のルールはちゃんと尊重したい。このほどよく緩い感じが、私たちは好きだなって思うんです。これが二地域居住って言われなければ、正直気づいていなかったですね。「拠点」という言葉を意識してなかったです。好きで来てて、好きなようにしていたら……という感じです。

壱岐には都会のような派手な遊び場はないですが、夏の海水浴、目の前で見られる花火大会、部活動に励む学生たちなど、昔ながらの「豊かな生活や風景」が残っているように感じます。

移住や二地域居住は、思っているほどハードルが高くないんじゃないかな。もちろん人にもよりますが、迷っている人であれば、まずはちょっと長く滞在して、この島の「緩さ」や「優しさ」を体験してほしいなって思います。



岩元さんご夫婦の二地域居住スタイルは？

東京で飲食店を営業し、1週間ほどお休みをいただいて、壱岐で過ごすことが多いです。東京の自宅から朝6時台の便で福岡へ飛び、地下鉄とバスを乗り継いで博多港へ、そこから高速船で来島します。東京の自宅から壱岐の家まで合計で5~6時間程度で来られるので、アクセスの良さを感じます。
壱岐での暮らしは、朝8~9時頃に起きてゆっくりコーヒーを飲んでから、買い物や家の掃除・補修などをします。夕方からは自分たちが食べる分だけの魚を釣りにいき、夜は湯本温泉を楽しむのが日課となっています。

いわもと かつとし　きりこ
岩元 克俊 さん/桐子 さん
東京/飲食店経営/50代

2022年に友人と釣りを目的に来島。空き家バンクを利用し家を購入。現在は東京と壱岐を行き来する生活を送っている。

フェリーは日常を脱ぎ捨てるスイッチ

私（旬加さん）は和食を中心に全国様々な土地で料理を振る舞う出張料理人です。初めて壱岐に来たきっかけは、調理師学校時代の友人が壱岐に移住しており、その縁で一緒に行った料理イベントです。

それから、友人をはじめ壱岐の皆さんとイベントをさせてもらえるようになり、壱岐育ちで福岡で料理人をしていた香緒留さんと出会いました。今は一緒に京都に住みながら壱岐を含め色々な地域で料理をしています。

壱岐に来るようになって、食の世界が広がりましたね。食材がどれもおいしく、壱岐に来る時は、どんな食材に出会えるかとワクワクします。あと、住んでいる人たちが優しい。一緒にイベントをやってくれる皆さんもそうだし、お客さまから「おかえり」と言ってもらえることが増えました。SNSでもつながって、壱岐の方々が「いいね」をしてくれるのを見ると、離れていてもつながっていると感じます。これからも、人とのつながりを大事にしたいです。

いただいたご縁を、壱岐の方々にも、私たちにとっても、良いものにしていきたいと思っています。

お二人にとって壱岐はどんな場所ですか。

壱岐は風の流れがある島だなって感じます。澱まないというか、フェリーに乗って向かっている時も、海が「洗い流してくれる」ような感じがします。

壱岐で過ごす1日について教えてください。

まずは食材の仕入れをしに島中を周ります。その合間で会いたい人に会ったり、行ってみたい場所に行ったりします。そのあとに仕込みをして、夜の営業に備えます。

まきた じゅんか　かおる
牧田 旬加 さん/香緒留 さん
京都/出張料理人/30代

2023年から年に2回ほど壱岐で料理イベントを開催。壱岐に実家がある香緒留さんは年に5~6回ほど帰省している。

ほっとしたような温かい気持ち――観光では味わえない感覚

教員の人事異動で壱岐への赴任が決まり、家族とともに壱岐へ渡りました。正直、家族を連れての離島生活には不安もありました。けれど、深江田原のまっすぐな道と広大な田園風景を目にした瞬間、「なんて素敵なところだ」と感じたのを覚えています。

最初は人見知りだった次女が泣いて「帰りたい」と言った時期もありました。それでも、壱岐の自然と人々に包まれるなかで、家族の心は驚くほど豊かに変化していきました。3年の任期を終える頃には、あれほど不安がっていた娘たちが「帰りたくない」と涙を流しました。

「将来は壱岐の病院で働きたい」「マリンパルで働きたい」と夢を語る姿を見て、この島に来て本当によかったと心の底から思いました。娘たちにとって壱岐は、自分のアイデンティティの一部になったのだと感じています。

私たち家族にとって、夏に壱岐へ「帰る」ことは大切な恒例行事です。壱岐に赴任する前は毎年、家族で沖縄旅行に出かけていましたが、もうその必要はなくなりました。私は海が大好きで、お気に入りの海水浴場は大浜です。泳いだり、ビーチコーミングをしたり、砂浜で遊んだりする時間が何より幸せな時間です。

フェリーから降りると、ターミナルで働く方々から「おかえり」と声をかけてもらいます。かつての教え子や地域の方々との再会も待っています。自然と「ただいま」という言葉が出て、心からの笑顔、ほっとしたような温かい気持ちになります。これは決して観光では味わえない感覚です。壱岐は、私の人生の一部になっています。

壱岐で必ず寄る場所はありますか?

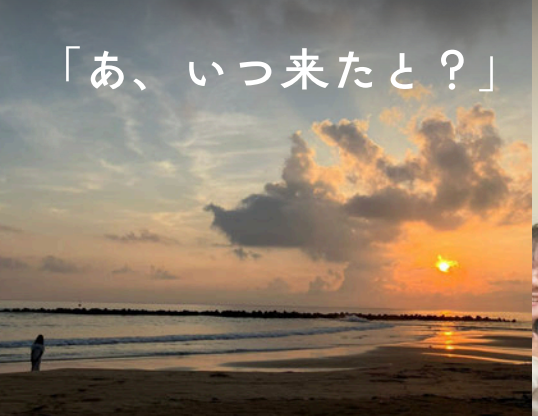
赴任していた小学校です。
5、6年複式クラスを受け持っていたのですが、教え子が作った卒業制作を見に行って、当時の思い出を振り返ります。

赴任時、小学生だった子どもたちは中高生になりました。

ひらやま けいいちろう
平山 圭一郎さん
長崎/小学校教諭/40代

2020年に転勤で壱岐に赴任し3年間居住。壱岐を離れた後も、年に1~2回、主に夏休みには子どもを連れて来島。

「あ、いつ来たと？」自然に受け入れてもらえるのが心地いい



初めて壱岐に来た時「なんかわからないけど、ここと徳島を行ったり来たりしたい」と強く確信したのが、私の二地域居住の始まりです。当初は家を借りることも考えましたが、希望の条件に当てはまらなくて。そこでたどり着いたのが、『みなとやゲストハウス』のヘルパースタッフとして、宿の仕事をお手伝いしながら滞在することでした。

ヘルパーとして、時にはゲストとして通い続けるうちに、島の人との関係は「観光客」から「日常」に変わっていきました。歩いていて知り合いに会うと「あ、いつ来たと？」と当たり前のように笑顔で挨拶してくれたり、徳島に帰るために芦辺港に向かっていると「もう帰ると？」と声をかけられたり。ふらっと来てはふらっといなくなるスタイルも定着し、この街の一部になれたような感覚に何とも言えない心地よさを感じます。「いてもいいんだ」って思えて、住民票はなくても、ここは私の居場所だと感じさせてくれます。

徳島で仕事と時間に追われていた私にとって、壱岐は「なにもしなくていい」と思える究極のリセットの場。それでも、みなとやのこたつで寛いでいる時に「髪を切ってほしい」と頼まれれば、ハサミを握ることもあります。

ゆるやかに島の人とつながっていく。この自由な距離感が、私の人生に良いリズムを刻んでくれています。

まんなか まどか
眞中 円 さん
徳島/フリーランス美容師/40代

2018年に初来島。2～3ヶ月に1回、数日から2週間滞在し、仕事をしたりしなかったり気ままに過ごす。

壱岐での「好きな時間」を教えてください。

日の出の時間に合わせて散歩すること。ただ海を眺めるだけで、心が整います。

「島の人と仲良くなるためのコツ」があれば教えてください。

一緒にご飯を食べて、お酒を飲む。
一気に距離が縮まって、次の日には知り合いとして接してもらえます。

「身内」のような空気感こそが、何よりの魅力です

福岡でサッカーチームを立ち上げたばかりの頃、合宿地を探していたときに、知り合いから紹介されたのが壱岐でした。

最初の合宿で、忘れられない出来事がありました。原の辻ガイダンスで体験学習をしたあと、帰りのバスに乗り遅れてしまったんです。途方に暮れ、宿泊していた石田町の民宿まで「歩くしかないか」と諦めかけていたとき、一人の子が「ヒッチハイクしよう」と。半信半疑で手を挙げてみると、一台のワゴン車が止まり、民宿まで送ってくれたんです。「温かいなぁ、壱岐」偶然の幸運なことでしたが、その感動が15年以上続く深いつながりの原点になりました。それから年に約4回、子どもたちを連れて壱岐を訪れています。

定宿では「安藤さん、ちょっとお願いしていい？」と用事を頼まれることもあります。夜は壱岐少年サッカークラブの指導者の方々とお酒を酌み交わしながら、たわいもない話をし、指導方法や育成について語り合う時間も楽しみの1つです。単なる来島者としてではなく、「身内」のような空気感で迎えてもらえること。それが、私にとって何よりの魅力です。

指導者としても、壱岐は本当に素晴らしいフィールドだと感じています。サッカーの技術だけではなく、宿泊や魚釣りなどの体験を通して、ピッチの上では見せない子どもたちの意外な才能や表情に出会えます。私も、夜の静かな島の時間に身を置いていると、福岡の忙しい日常では思い浮かばないような新しい仕事のアイデアが、ふと降りてくることもあります。

自分にできることがあるのなら、小さなことでも力になりたい。そんな思いで、これからも壱岐との縁を大切にしていきたいです。

あんどう しんご
安藤 慎悟 さん
福岡/サッカー指導者/40代

15～16年前に初来島。現在は年に4回ほど来島し、サッカークラブの合宿や壱岐のサッカーの大会に参加している。

将来、壱岐に住んでみたいですか？

はい。「壱岐に住んだらどんな暮らしになるんだろう」と想像することはあります。今は福岡でクラブチームを運営しているので難しいですが、将来的には、そんな選択肢もあるのかなと思っています（笑）。それくらい、壱岐は私にとって居心地のいい場所なんです。

何気ない日常が面白くなる それが壱岐

よこお　ともひろ
横尾 友博さん
壱岐市/会社員/40代

2023年頃に来島。現在は壱岐市内の家をDIYでリフォームし、家族3人で暮らしている。福岡市内の会社に務め、週に2～3回福岡に通いながら、壱岐ではリモートで勤務中。

初めて来島した際に宿泊した『みなとやゲストハウス』のオーナーさんやスタッフさんの雰囲気がとても良かったんです。また、道で出会う子ども達が挨拶をしてくれたり、宿にふらっと近所の子ども達が来たりと、大人がみんなで見守る緩やかなつながりにひかれ、「ここなら楽しく子育てができるかもしれない」と感じました。

都市部に住んでいると、周りのほとんどの大人が勤め人だったりしますが、壱岐はそうではない。出会った友人が、「ここには何をしているか分からないおもしろい大人や多様な価値観の旅人がたくさんいる」と言っていたことが印象に残っています。

今の世の中、様々な教育コンテンツはオンラインで受けられるので、多様な生き方を楽しんでいる大人や子どもと一緒に過ごせる環境が、子どもに刺激的で良いのではないかなと思います。

移住するまではあまり「いつもの日常がおもしろい」という概念がなかった気がします。でも今は、近所のおじいちゃんやおばあちゃんと何気ない会話をしたり、釣った魚をおすそ分けしたり、友だちと持ち寄りで飲み会をしたりしています。地元のお祭りでも、近所のいろんな人達と知り合って仲良くなれる。そういったふとした日常がおもしろいなって感じます。

福岡へ出勤する1日を教えてください。

朝7時ごろに起きて、子どもに朝食を食べさせて保育園に送ります。8時台の高速船に乗って、博多のオフィスには9時半に出社します。日帰りの場合は、夕方の高速船で壱岐に帰りますし、夕方に外せない予定が入ったら、博多を深夜に出発するフェリーで帰ります。福岡に高速船で約1時間で行けるので、今は仕事と暮らしのバランスがとても良いです。

やりたいことしかやっていない ここは私たちにとっての「楽園」です

にいみ　たかし　　よしみ
新美 高志 さん/好美 さん
神奈川
メーカー勤務/パート
60代 / 50代

2023年に初来島。年に3～4回、季節を変えて訪れ、宿やその周辺でのんびりと過ごす。

2023年に初めて壱岐を訪れてから、10回以上来島しています。きっかけは魚料理好きの私（高志さん）が仕事の同僚から「壱岐の魚はうまいぞ」と聞いたことです。実際に来てみたら、その通りでした。関東ではまずお目にかかれない魚が並び、その身の締まり方や旨みに、夫婦ですっかり心を奪われてしまったんです。

滞在中は、とにかく2人でやりたいことしかやりません。私（高志さん）は、宿に届けてもらう新聞を読み、朝食を食べたらジョギングをするため、屋内運動施設のサンドーム壱岐へ。雨の日も風の日も関係なく運動できるところを探していたところ『平山旅館』の女将さんに教えてもらいました。たっぷり運動して、夜に待っているおいしい魚と壱岐焼酎を全力で楽しむのが、一番の贅沢です。

私（好美さん）は、とにかく温泉が大好き。朝一番で日帰り温泉へ行き、湯の花の膜が張ったパリパリの温泉に入りに行くことも。ゆっくり歩いて宿に戻り、次は宿の温泉に。壱岐の湯は本当によく効きます。以前、足を痛めた時も、温泉に入ってゆっくり過ごしたら不思議と楽になりました。

私たちにとって壱岐は、現世の喧騒を忘れて過ごせる「楽園」のような場所。島を離れる時は、決まって次の予約を入れます。必ずまた戻ってくる場所だと思えると、寂しい気持ちが和らぎます。

自分は単なる観光客ではないなと感じたことはありますか?

宿の皆様に覚えていただいているのはもちろん、日帰り温泉の番頭さんや焼酎蔵のスタッフの方にも顔と名前を覚えてもらっていて、顔見知りになっていることです。観光できた方のように何か見に行ってみようなんて冒険はせず、知っているところに行くことを楽しんでいます。

interview

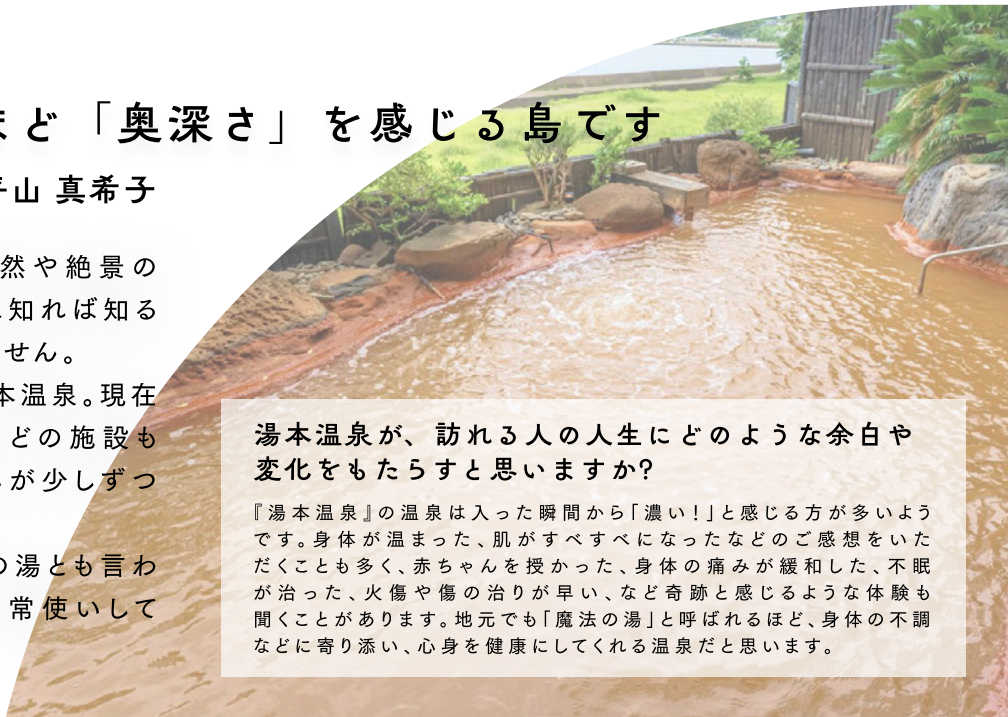
壱岐は滞在すればするほど「奥深さ」を感じる島です

壱岐湯本温泉旅館組合　　代表 平山 真希子

四季を通じて出会う食の恵みや、自然や絶景の数々はもちろん、歴史や文化習慣などは知れば知るほど新しい発見と学びがあり、飽きさせません。

また千年以上前からあったとされる湯本温泉。現在は日帰り入浴は10施設で営業中です。どの施設も自家源泉、源泉掛け流しで、入った感じが少しずつ違うので湯めぐりも楽しめます。

身体をあたため、肌もしっとり、子宝の湯とも言われる名湯は、温泉好きの方にはぜひ日常使いしてほしい温泉です。



湯本温泉が、訪れる人の人生にどのような余白や変化をもたらすと思いますか?

『湯本温泉』の温泉は入った瞬間から「濃い！」と感じる方が多いようです。身体が温まった、肌がすべすべになったなどのご感想をいただくことも多く、赤ちゃんを授かった、身体の痛みが緩和した、不眠が治った、火傷や傷の治りが早い、など奇跡と感じるような体験も聞くことがあります。地元でも「魔法の湯」と呼ばれるほど、身体の不調などに寄り添い、心身を健康にしてくれる温泉だと思います。

長崎県壱岐市 二地域居住のすすめ

企画・発行　長崎県壱岐市役所　地域振興部 地域共創課
〒811-5192 長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触562
TEL：0920-48-1134(直通)

発行日　令和8年3月
制　作　株式会社いきさき